

中山道を歩こう会

(志村坂上駅～蕨宿～武蔵浦和駅)

今回は志村坂上駅からスタートして、戸田の渡しを渡り蕨宿に行きます。

記

■日 時：平成 28 年 5 月 26 日（木）8 時 12 分集合
雨天の場合は 6 月 3 日（金）に延期

■集合場所：所沢駅池袋行ホーム 中央階段下

■見学場所及び時間：コース全長約 12km

所沢駅(8:17 急行)巣鴨経由⇒志村坂上（南北線）

⇒清水坂⇒戸田渡船場跡⇒戸田一里塚跡⇒昼食

⇒蕨宿（民俗資料館、蕨城址、和楽備神社等）⇒辻一里塚跡

⇒焼米坂⇒武蔵浦和駅……新秋津経由 所沢（17 頃帰着予定）

■交通費（所沢から）：約 1,200 円

■昼食 ロイヤルホスト 戸田店 11:30～12:30 ☎048-445-3264

■散策先簡単ガイド

<清水坂>

中山道最初の急坂で、八代将軍吉宗公が鷹狩りの折り大善寺で休憩した際、崖からの湧き水の見事さに寺の本尊薬師如来を清水薬師と命名したことにより、この坂も清水坂と呼ばれるようになりました。江戸名所図会には「世に地藏坂と号し、旧名は隠岐殿坂と呼べり」とあります。かつて坂の途中に地藏尊があったこと、15 世紀半ば志村城の千葉隠岐守が険しいこの坂を整備したためついたそうです。

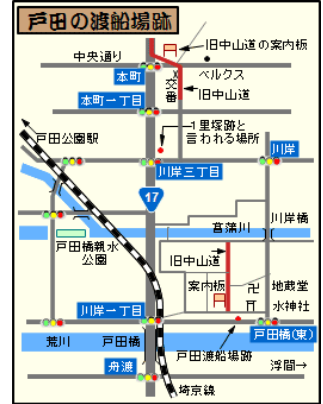
この坂は途中大きく曲がっていて、街道で唯一富士を右手に一望できる「右富士」の名所であったと言われていています。坂の下には板橋・蕨両宿をつなぐ合(あい)の宿があり、そこには志村名主屋敷や立場茶屋などがあって、



休憩や戸田の渡しが増水で利用できない時に控える場所として利用されてきました。このあたりは昭和30年代頃までは旧街道の面影をのこしていましたが、地下鉄三田線の開通など、都会化の波によってその姿を変えました。現在は新しい道標がありますが、かつては「大山道 ねりま 川こへみち」と刻まれた道標と庚申塔がありました。

<戸田渡船場跡・水神社・地藏堂>

新河岸川に続いて荒川を越えます。荒川から対岸の蕨宿へは渡し船を利用して渡っていました。町名の船渡りがその名残でしょう。戸田橋を渡って少し下流側に「中山道戸田渡船場跡」の記念碑があります。



水神社：正面の「水神宮」の碑には寛政八年(1769)の銘があります。

元は荒川の端にあったもので、新堤防ができてから移されました。境内の正面には、「水神宮」や「船玉大明神」(船の守り神)と刻まれた大きな石碑が鎮座しています。昔は、その年にはじめて採れたキュウリをこの水神社に供え、この後に荒川に流してからでない泳ぐことができないとされていました。

地藏堂：戸田市内最古の木造の建造物、江戸時代に作られた「中山道分間延絵図」にも記されています。享保16年(1731)の庚申塔があります。



<戸田村の一里塚跡>

説明板もないが、川岸3丁目交差点を過ぎたあたりに日本橋から四里目の一里塚があったようです。つつじ幼稚園門脇の榎の切り株が一里塚跡とも考えられています。

<昼食：ロイヤルホスト 11:30~12:30>

<蕨宿>：日本橋から二つ目の宿場、錦町1丁目交差点から入ったあたりに下の木戸があったと言われています。ここから10町(約1.1km)の町並みが続きます。本陣2軒・脇本陣1軒・問屋場と高札

場が1か所ずつあり、庶民が泊まれた旅籠や休憩のできた茶屋、さらには穀物屋・豆腐屋・髪結などさまざまな職業の人々が暮らしていました。

歴史民俗資料館・分館・本陣跡



歴史民俗資料館分館



本館



本陣跡

蕨城址：蕨城は、南北朝時代に渋川氏が館を構えたのに始まり、戦国時代の永禄10年(1567)、上総の国三舟山合戦での渋川氏の戦死にともない廃されたと言われています。江戸時代の始めには、鷹狩り用の休憩地の「御殿」として蕨城の跡地が利用されました。



和楽備神社：社伝によれば室町時代に蕨を所領とした足利将軍家の一族、渋川氏が蕨城の守り神として八幡神を勧請したのが始まりです。明治44年、町内の18社を「八幡社」に合祀して「和楽備神社」と改称しています。現社殿は、平成9年に再建されたものです。



長泉院梵鐘：長泉院にある鐘は、宝暦8年(1758)に円清を中心とする万人講の人々により造立されたものです。乳のかわりに梵字が鋳出され、撞座が4つあるなどの特色があり、音色の良さから、「おしゃみの鐘」として人々に親しまれています。



河内屋鈴木薬舗：昭和6年建築された建物、明治18年からここで薬局を始めました。梁の

太さに目を見張ります。

三学院：金亀山極楽寺と称し、真言宗智山派。本尊は平安後期の慈覚大師作と伝えられる十一面観音。天正 19 年（1591）11 月寺領徳川家康から朱印状を与えられ、幕末まで蕨宿内に寺領を持っていました。



跳ね橋：蕨宿の周りには用水と防備を兼ねた構え堀が巡らされていました。この堀に面した家々には小さな跳ね橋が設けられていて、早朝下ろされ、夕刻になるといっせいに跳ね上げられました。現存するのはこのみ。



上の木戸：旧中山道と 17 号（現中山道）が交差する場に上の木戸と蕨警察北町交番があります。裏手には、大名行列や蕨宿をイメージした壁画のあるポケットパークが設置。



<辻一里塚跡>

中山道 5 番目の一里塚がありました。この先、熊野権現あたりに辻村の立場があったそうです。（立場：継立場宿の間の休憩所、馬や駕籠の交代をした。）

<焼米坂・白幡>

「新名物やき米」との看板を掲げた茶屋数軒があったのが名の由来。当時の焼き米というのは、粳のままの米を焼き、それを搗いて殻を取り除いたものである。これは保存食として古くからあった調理法で、そのまま、もしくは、煎り直したり、水や茶に浸して柔らかくするなどして食べる。

坂を登りきるとそこは**白幡**、将門を成敗するため藤原秀郷が八幡を勧請して白旗を立てた所というのが名の由来。

<帰路>当初の予定ではここから浦和まで歩く予定でしたが、少し短くして武蔵浦和駅に向かいます。次回は武蔵浦和駅からです。

武蔵浦和駅（武蔵野線）⇒新秋津・秋津経由⇒所沢着 17:00 頃予定

以上